

フィルムカメラの楽しみ

デジタルカメラが登場したのは1975年、アメリカのイーストマン・コダック社が開発しました。かつては写真フィルムで圧倒的な世界シェアを誇りながらこのほど破産手続きに入った同社が、フィルムを使わないデジタルカメラを世界で初めて開発したのです。

デジタルカメラ以前のフィルムカメラは、1889年、同じくコダック社によるロールフィルム開発とともに始まりました。それまでの大きな箱型カメラに比べて、フィルムカメラはたいへん小さくすることができました。また最新の技術が取り入れられ、性能が向上していった分、たいへん高価で、使い方も素人には難しいものでした。そんなカメラを持つことは、(特に男性にとって)一つのステータスあるいは憧れでした。今と違って、写真を撮ったり撮られたりすること自体が、ぜいたくな楽しみ・レジャーだったのです。

感光物質である塩化銀を使ってフィルムを現像し、印画紙に焼き付ける銀塩写真。その基本技術は約180年前に完成し、以来改良が続けられてきました。今ではデジタル写真に主役の座を奪われてしまいましたが、保存状態さえ良ければ100年以上持つといわれています。皆さんは、撮った写真をどのように保存していますか？デジタルデータはそんなに長く保存できないそうですよ。

マミヤ シックス(MAMIYA 6)

1940年代の開発以来、何度も改良版が登場した日本の代表的な「スプリングカメラ」



1950年代 岡崎むかし館 蔵

オリンパス ペン EES(OLYMPUS PEN EES)

ピント、シャッタースピード、絞りが自動調節で、女性に人気を博した「ハーフサイズカメラ」



1962年 岡崎むかし館 蔵

ペンタックス オート 110(PENTAX AUTO 110)

一眼レフカメラのメーカー旭光学が開発したコンパクトカメラ(110フィルム採用、交換レンズ付き)



1979年 岡崎むかし館 蔵

オリンパス XA(OLYMPUS XA)

スライド式カバーをつけ、その形からカプセルカメラとも呼ばれたコンパクトカメラ(ストロボは外付け)



1979年 岡崎むかし館 蔵

旧ソ連(現ロシア)製の二眼レフカメラ OMO LUBITEL166 UNIVERSAL

輸出用に生産された一種の「トイカメラ」



岡崎むかし館 蔵

中国製の二眼レフカメラ SEA GULL (海鷗)

「シーガル」は上海にあるカメラメーカー



岡崎むかし館 蔵